



日本銀行金融研究所  
Institute for Monetary and Economic Studies,  
Bank of Japan

# 金研ニュースレター

2015年9月

金融研究所 (Institute for Monetary and Economic Studies, IMES) は、1982年10月に日本銀行創立100周年を記念して、日本銀行の内部組織の1つとして設立されました。金融研究所は、金融経済の理論、制度、歴史に関する研究を行っているほか、金融経済に関する歴史的資料の収集・保存・公開を行っています。

## ハイライト

1. 2015年国際コンファランス
2. 第16回情報セキュリティ・シンポジウム

「金研ニュースレター」は、日本銀行金融研究所が主催したイベントを、幅広い読者を対象に、タイムリーにお知らせすることを目的としています。

## 1. 2015年国際コンファランス

日本銀行金融研究所では、6月4日・5日に、日本銀行本店において、2015年国際コンファランスを開催しました。

1983年の第1回開催以来、22回目となる今回のコンファランスでは、学界、中央銀行、国際機関から、約90名の有識者が参加し、「金融政策：効果と実践」をテーマに、様々な論点について意見交換が行われました。



開会挨拶を行う黒田東彦総裁  
(日本銀行)



コンファランス参加者

黒田東彦総裁(日本銀行)の開会挨拶では、現在の金融政策運営に関する論点として、①非伝統的金融政策の効果と波及経路、②原油価格低下と予想物価上昇率、③先進国の間における金融政策の方向性の相違がもたらす国際的な波及への対応、が挙げられました。

さらに、学会や中央銀行サークルにおける近年の議論を踏まえ、少し長い目でみた政策上の論点として、長期停滞論などに言及がなされ、これらの課題の克服に向けた前向きな姿勢と確信の重要性が述べられました。

伊藤隆敏教授(コロンビア大学兼政策研究大学院大学)が座長を務めた政策パネル討論では、中曾宏副総裁(日本銀行)を含む中央銀行関係者等の5名がパネリストを務め、開会挨拶で挙げられた論点について、コンファランスの参加者を交えた活発な議論が行われました。



パネリストと座長(左から順に):ルーカス・パパデモス名誉総裁(ギリシャ銀行)、中曾宏副総裁(日本銀行)、ラヴィ・メノン長官(シンガポール通貨庁)、マーヴィン・グッドフレンド教授(カーネギー・メロン大学)、ステファン・チェケッティ教授(ブランダイス国際ビジネス・スクール)、伊藤隆敏教授(コロンビア大学兼政策研究大学院大学)

※ 各参加者の肩書き・所属は、本コンファランス開催時点のものです(以下同じ)。

また、中央銀行エコノミストや学者による5つの論文報告セッションがありました。



「Forward Guidance and Asset Prices」と題する論文を報告するジョナサン・ライト教授(ジョンズ・ホプキンス大学)



「Money Markets and Monetary Policy」と題して発表するジェームズ・マカンドリュース副総裁(ニューヨーク連邦準備銀行)

最後は、バリー・アイケングリーン教授(カリフォルニア大学バークレー校)による長期停滞論に関する前川講演(金融研究所発足時〈1982年〉の総裁である前川春雄氏にちなんで名付けられています)で締め括られました。



「Maturity Structure and Supply Factors in Japanese Government Bond Markets」と題する論文を報告する福永一郎氏(日本銀行)



「Wall of Worries: Reflections on the Secular Stagnation Debate」と題して前川講演を行うバリー・アイケングリーン教授(カリフォルニア大学バークレー校)



「On the International Spillovers of US Quantitative Easing」と題する論文を報告するロランド・シュトラウプ氏(欧州中央銀行)



「A Model of Secular Stagnation」と題する論文を報告するニール・メーロトラ助教(ブラウン大学)

コンファランス当日の様様については、金融研究所ホームページに掲載予定です。

<http://www.imes.boj.or.jp/english/publication/conf/2015confspaa.html>



## 2. 第 16 回情報セキュリティ・シンポジウム

金融研究所情報技術研究センター (CITECS) は、3 月 11 日に、日本銀行本店において、「金融サービスにおける技術進歩と課題：CITECS 設立 10 周年記念」と題する第 16 回情報セキュリティ・シンポジウムを開催しました。



シンポジウム参加者

今回のシンポジウムでは、金融分野に関係する情報セキュリティ技術について、金融研究所スタッフによる研究発表のほか、学会・金融機関からの参加者による講演等が行われました。また、その中で明らかにされた問題提起を受けるかたちで、有識者によるパネル討論が行われました。

シンポジウムには、情報セキュリティ技術に関わる金融機関の実務者や官公庁関係者のほか、暗号学者、システム開発・運用に携わる技術者等、約 130 名が参加しました。



開会挨拶を行う小高  
新吾情報技術研究セ  
ンター長(日本銀行)



司会進行を務める中  
山靖司氏(日本銀行)

※ 各参加者の肩書き・所属は、本シンポジウム開催時点のものです(以下同じ)。

基調講演において、松本勉教授(横浜国立大学)は、CITECS 設立から現在に至るまでの CITECS の研究活動実績を振り返ったうえで、シンポジウムのテーマである「金融サービスにおける技術進歩と課題」の背景について議論しました。



基調講演を行う松本勉教授(横浜国立大学)

パネル討論では、「インターネット・バンキングの安全性向上に向けて」をテーマとして、3 名のパネリストによる議論が行われ、フロア参加者を巻き込むかたちで白熱しました。



「EMV カードシステムへの新攻撃手法を踏まえた、インターネット・バンキングにおける『取引認証』実施時の留意事項」と題して発表する井澤秀益氏(日本銀行)



「オンラインバンキング不正送金の手口と対策」と題して講演する大日向隆之氏(三菱東京UFJ銀行)



「IC カードの安全性評価手法に関する研究動向と EMV 仕様固有の留意点」と題して発表する鈴木雅貴氏(日本銀行)



座長とパネリスト(左から順に):松本勉教授(横浜国立大学)、上原哲太郎教授(立命館大学)、楠正憲氏(ヤフー株式会社 情報セキュリティ責任者 ID 戦略室 室長)、鎌田敬介氏(金融ISAC 理事/FS-ISAC Regional Director)



「量子コンピュータによる解読に耐えうる『格子暗号』を巡る最新動向」と題して発表する清藤武暢氏(日本銀行)

シンポジウム当日の様様については、金融研究所ホームページに掲載しております。

<http://www.imes.boj.or.jp/citecs/symp/16/>

金研ニュースレター 2015年9月

※本誌に関する照会は、日本銀行金融研究所までお寄せください。

無断での転載・複製はご遠慮ください。

日本銀行金融研究所(IMES)

〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町 2-1-1

TEL:03-3279-1111(大代表)

FAX:03-3510-1265

E-mail:imesjournals-info@boj.or.jp

ホームページ:http://www.imes.boj.or.jp/index.html